

市民植樹祭
6月20日小雨の降る天候の中
思い出の1本を植える参加者



の 広報 ぼりべつ

'93
7.1
No.513

難関突破！剣道八段に昇段

小高 終八郎 さん



町出身。剣道を始めたのは、大分高等学校に入学した十五歳の時から。入学当初は柔道部へ入部しましたが、体が小さかったので、となりの道場でけい古をしていた剣道部へ転身。「剣道の方が自分の体格に合っていましたから」と言う小高さんは、人一倍の努力でめ

きめきと腕を上げ、高校卒業時には二段に昇段。高校三年と十九歳の時二回国体出場のほか、全九州段別選手権では、三段の部で第三位を獲得しています。

剣道人には、八段取得は夢

五月七、八日の両日、京都武道センターで開かれた全日本剣道連盟の昇段試験で、片倉町在住の小高終八郎さん(五十五歳・自営)が、最難関と認められる八段に見事昇段しました。

一年一回の八段昇段試験は、七段取得後十年以上のキャリアと、年齢が四十八歳以上で初めて資格を得ます。七段まで一発で合格した小高さんは、八段昇段資格を得た年から毎回挑戦し、七度目で見事難関を突破しました。

昇段試験は、実技を伴うのは八段までで、九段以上は書面審査で昇段します。最高位の十段は、現在おらず九段は全国で二十二名。道内で八段取得者は小高さんで十四人目。今後道内の剣道界の発展への力として期待が寄せられています。

今年には全国から八百四十三人が受審。初日の一次試験(実技)突破者はわずか四十人。次の二次試験(実技)で十七人だけが残りました。二日目も日本剣道形の打太刀十本、仕太刀十本の披露、学科試験と続き、この十七人の昇段が認められました。今年には五十人に一人という確率でこの厳しい合格率でした。受かった時は「感無量でしたね。表紙が届いて本当

七段まではトントン拍子で昇段

小高さんは、大分県大野郡三重

熱心なけい古で着実に腕を上げ、三十四歳で七段に昇段しました。その間、師匠滝沢栄八範士八段(京都武道専門学校出身)に師事され、北海道段別選手権大会では、四段、六段の部ではそれぞれ一回優勝、五段の部では三回優勝しています。また、全日本選手権大会には、全日本東西対抗剣道大会

には三回出場し、さらには東北北海道対抗剣道大会に二十三回の出場を果たし、優秀な成績を上げています。

に受かったんだとまあ実感しています」と喜びをかみしめています。

第二の人生も剣道とともに

三年前に自衛隊を退職した小高さんは「各地で開かれる講習会での指導や審判員、そして自分自身の試合がありますからね」と再就職をしませんでした。

現在は、奥さんの栄子さんが営むラーメン店で一緒に働きながら、登別剣道連盟の理事長兼指導部長を務めています。週一回千歳市の滝沢栄八範士八段のもとへ通い、また、登別大谷高校の青樹館で、近郊から集まる有段者や初心者への指導を続けるかたわら自らの修行にも励んでいます。

七月四日、宮城県で開催される東北北海道剣道大会では、八段になつて得られた「大将」を務めます。「これからの本場の勝負です。八段にふさわしい人格や社会的な役割など一層求められますから」と、今後も日々研さんに励む決意を新たにしています。



市民登場

友達の輪

くき た よし お
茎田由雄さん
(82歳)

若草町在住



陶芸は 火の芸術

前号の西川道子さんからのご紹介で、今号は若草町にお住まいの茎田由雄さんの登場です。

「こちらに引越して来た当時の町の様子、そして数多い趣味の話などを伺いました。」

若草町に引越してきたのは、今から二十八年前の昭和四十二年です。旧国鉄を退職して、私は伊達に住みたかったんですけど、子供達に反対されて、ここに家を建てたんです。当時は、五十軒ほどだったのに、今は大住宅街ですよ。でもね、山の方へ十分位歩くと、自然に触れるいい所がいっぱいあるんです。

趣味は、たくさんあってね、若いころからいろいろなことをしましたね。弓道や写真、俳句、書道、社交ダンス、山登り、そして植物友の会にも入っていました。その他旅行も大好きで、ガイド役を引き受けてしまってます。地元の人よりいろいろな所を知っているんだから・・・

数ある趣味の中で、「陶芸はやって良かった、おもしろい」とおっしゃる茎田さん。始めるきっかけと、続けている理由は何なのか、どうでしょう。

陶芸を始めたのは十四年前で、老人大学の陶芸教室がきっかけなんです。昭和五十四年、恵寿園に市が設置した窯を活用して、五十人から始めたんです。現在、その

窯は幌別町のすずかけ作業所隣りにあり、老人クラブ連合会の陶芸部「登別窯」と名付けて、部員二十人が和気あいあいの雰囲気です。窯元の幌別町まではバイクで行くんです。私達、老人のやっている陶芸は腕を競うのではなく、半分は趣味で半分は交流なんです。

いろいろなことをやってみましたが、本当に陶芸をやって良かった。型作り、素焼き、上葉そして最後の窯出しまで、その作品の出来具合がどうなるか分からないところが本当におもしろい。最後に火の力で全く予期しない色が現れる「窯変」も楽しみです。

病院通いをしていられるとは言え、八十二歳と思えない若さで、たくさんさんの趣味を持ち続けている茎田

さんですが、これからはどのような抱負をお持ちなのでしょう。

日ごろ市にお世話になってるので、初心者陶芸教室の講師を引き受けたり、障害者やお年寄りにも陶芸を広げようと市が導入した西洋陶芸の指導もこれから始めます。絵柄を描く力をもっと付けなくてはと、今は水墨画にも挑戦中なんです。それから、私達のとに続く人を作っていくことが大切だと思っています。

陶芸の伝授を続ける茎田さんは「私達の技術が役立つなら何でもやります」と、ますますお元気で、張り切っていました。

今回は、中央町にお住まいで俳句を趣味にしている荒井宝子さんです。お楽しみに！

茎田さんの作業を興味深く見る丸山リポーター



市民リポーター・丸山 由紀

悲惨な交通事故は

もう繰り返さない



交通事故は、決して人ごとではなく、身近なそして深刻な問題です。交通事故防止の呼びかけを何うても、毎年多くの人が事故で亡くなったり、ケガをしています。家族の誰かが事故にあつと、その悲しみや苦しみは家族全員に及び、本人や家族の人生を大きく狂わします。

また、加害者のドライバーもあまりにも大きい事故の代償に苦しんでいます。交通事故で苦しむことのない人生を送るため、一人ひとりが事故を起こさないよう、事故に遭わないよう、そして尊い命を守るため、みんなで交通安全を心掛けて行きましょう。

死亡交通事故 すでに二件発生

登別市内の交通事故は、六月二十三日現在九十七件発生し、死者が二名、負傷者が百十六名となっています。

交通手段として、わたしたちの日常生活に欠くことのできない自動車は、その便利さの反面一歩誤ると歩行者はもとより、ハンドルを握るドライバー自身にとっても凶器となり、命を脅かします。それだけにドライバーは凶器を動かす者としての厳しい注意が必要です。しかし、現実には発生している事故を見るとあまりにも無自覚、無責任、不注意なドライバーが多いのに驚きます。

取り返しのつかない事態になって初めて事故の恐ろしさに気づく。そんな事例の繰り返しがあまりにも多いのが現実です。

昨年の交通事故発生 件数は二百三十四件

昨年、市内で発生した交通事故の件数は、二百三十四件。その内死亡者七名、負傷者は二百八十九名を数えています。発生件数を地区別に見ると、登別地区が八十八件で死者が五名、負傷者が百七名と

非常に高く、続いて幌別地区の五十八件、死者一名、負傷者六十七名となっています。また、事故を起こした年齢層は、全体の四十八・二パーセントにあたる百十三件が二十歳代から三十歳代のドライバーで占められています。この他、原因別では安全運転義務違反による、うっかり、ぼんやりなどの不注意型事故が百十件で約半数を占めています。一昨年と比べても市内の交通事故発生件数は三十五件、死亡者も四名とそれぞれ増加し続けています。

ゆずりあいの気持ちと 心にゆとりを

交通の場では、交通ルールだけでは解決できないこともあります。自分本位の考え方を捨てて、ゆずりあいの気持ちで運転するよう心掛けましょう。多くの場合、車が悪いと一方的に決めつけられますが、路上への飛び出しなどによる歩行者側のマナーの悪さや、自転車に乗っていた側の違反もありま

す。市は、市民の皆さんの安全を確保するため、関係各団体と協議しながら信号機の設置や歩道の新設、また街路灯の設置など交通安全施設の整備を行っています。

交通事故を起こし、交通刑務所に収容されているトラック運転手(五十四歳)の手記を紹介します。これは、(財)北海道安全協会が発行している小冊子「ある日突然に」私の叫びを無にしないで」より抜粋したものです。

他人事ではない事故の恐ろしさ

私は今、交通違反を犯し、厚い壁に囲まれた刑務所で受刑生活を送っている一人です。一般社会とは異なり、想像もつかないほどの生活です。皆さん、そしてプロの運転手の皆さん、私のこれからの話をよく聞いてください。

他人事ではありません。皆さんが事故を起こしてからでは遅いのです。道内では交通事故によりたくさん尊い命が失われております。受刑者の中にはまだに被害者補償のメドもついていない者もおります。事故を起こしてしまつたならば、被害者の家族からは憎悪の目で見られ、また、自分の家族に対しても、何一つしてやることもできません。受刑者の中には、生まれてくる自分の子供の顔さえ見ることができない人もいます。生まれた子供や妻に何一つしてやる事ができないのです。そんな話を聞かされて、胸が熱くなり涙を幾度となくこぼすことがあります。

事故は一瞬にして起こります。

刑務所の中では、先生方から社会のルールを守らなければ、必ずその「つけ」が来ると言われていますが、その時はもう遅いのです。被害者の家族にとっては、一瞬にして失つた大切な子供、兄弟であれば想像もつかない程つらいことでしょう。もちろん自分の家族に対してもです。

「もしあの時」では遅いのです。事故で家族を失うのはその遺族にとつては大切な家族を殺されたのと同じことなのです。

運転手の皆さん、車を「鉄の凶器」にしてはなりません。そのために必ず心に「ゆとり」を持って運転することです。

私がここに来て、六か月になります。本当に罪の重さを感じています。これからも自分を戒めながら一日一日規則正しい受刑生活を送り、社会に復帰できたときは模範的な交通社会人になることを誓っています。

○交差点の事故を防ぐチェックポイント

1 チェック 信号、いつも自分の目で確かめていますか？

●意図的でない「信号無視」が危険

交差点事故の三分の一以上は信号のある交差点で発生しており、「信号無視」による事故も少なくありません。事故の多くは、「信号無視」しようという意図がなかったのにもかかわらず、前車にそのまま追従し、結果的に「信号無視」となってしまうものです。交差点では、常に自分の目で信号を確かめる習慣を身に付けるようにしましょう。

3 チェック 交差点の先の交通状況も確かめていますか？

●青信号だから進行するという思い込みが危険

交差点とその付近で発生する事故の大半は追突事故です。先行車群が信号に従ってスムーズに進行するものと考えて、前車に追従するのは危険です。前車が何らかの理由で減速、停止し気づかないこともあります。交通の流れの変化を速めに読み取るのも大切です。

2 チェック 青信号の意味正しく理解していますか？

●青信号は「進め」ではない

青信号の正しい意味は「進むことができる」であり、安全を無条件に保証してくれるものではありません。青信号は「進め」と単純に理解していると、優先意識だけが先行し、安全確認がおろそかになりがちです。交差点では、たとえ青信号でも自ら安全を確かめる習慣を付けましょう。

交通事故発生率(平成4年・全国)



交通事故のおよそ60%は交差点およびその付近で発生しています。

ハイキング



裏地獄を眺望できる展望台があり、ベンチ、テーブルが置かれ、ハイキングに最適なナナカマドの広場。

ヤマツツジ 山 紅葉

全国の各所に分布し、樹体数も多いので、樹体密度が目立ちます。山頂付近は紅葉が早く、下層にまで紅葉の広がります。



遊歩道に設置されている看板。大小五十個あり、親切で楽しい説明がいっぱい。

最後の史跡は「薬師如来」。第二展望台から地獄谷展望台へ下った地獄谷遊歩道の入口にあります。一八六一年、硫黄採掘人が患っていた眼をお堂の下から湧いていた温泉で洗って治しました。そのお札に南部藩内氏の家臣善四郎が寄進した石碑が建っています。次に「鉄泉池」へ。地獄谷遊歩道を進むと、中程に

延長百五十メートルの木製遊歩道があります。池は、その先端にある間欠泉で、約二分間隔で噴気活動を繰り返しています。最後は「ナナカマドの広場」。ナナカマドの木



トイレ、東屋、水路、展望台が、新しく整備されたお湯の広場。

立と芝の広場の中にテーブルやベンチが置かれています。木立に掛けられた果箱には、シジュウカラが果作り。自然観察には最適です。
 ◆1時間半の散策コース◆
 二番目のコースは時間のある方(二時間半程度)にお勧めするコースです。大湯沼にあるお湯の広場へ少し足を延ばします。(美化センター)→題目石! 陀作観音! 薬師如来! 鉄泉池! ナナカマドの広場! 大湯沼展望台! 奥の湯展望台! 舟見山遊歩道! 舟見山第二遊歩道! 美化センター! 森林浴やボードウォーキング、植物の観察が満喫できます。また、舟見山には高浜虚子の句碑、栗林加寿子の歌碑があり、文学散歩も楽しめます。奥の湯展望台のある「お湯の広場」は、トイレ、あづま屋が新設され、湯の川が流れる小公園になっています。

大湯沼遊歩道をお湯の広場へ向かう。途中、大湯沼を眺める。



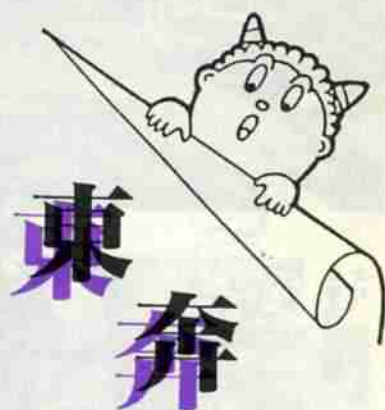
◆地獄谷のガイドさん◆

六月から十月までは、毎週木、土、日曜日に地獄谷へ行くと、登別市観光ボランティアガイドに会うことができます。ボランティアで観光案内をしていく方々で、登別温泉を訪れる観光客に地獄谷の良さを知ってもらおうと、四年前から活動しています。メンバーは四十五名います。

年間四百万人もの観光客が訪れる地獄谷の取材を通して感じたことは、この谷で奮闘しているのは、わずかに観光ボランティアガイドの方々と美化財団の方々だけという現状の寂しさ。それと、自分の地獄谷への認識不足。観光ボランティアガイドの方々が「こんにちは、どちらからいらっしゃいましたか」と、始めて会う観光客に一生懸命接する姿に感動し、私も登別温泉に住み、観光の仕事に携わっている一人として、これから何か行動しなくてはと、非常に心奮い立たせられました。

回 リー ン イ ノ バ ル n EDA

▶三日間で一万二千人を迎えた
歓迎アーチ



東 奔

「孫にもっと親しんで」と六月十一日から十三日まで亀田記念公園で今年初めて「第一回ラブグリーンフェスティバル in KAMEDA」が開かれました。



▶まだ冷たい「じゃぶじゃぶ川」に飛び込んで金魚をすくう元気な子
◀笹舟はこういうふうにするんだよ



小学生と一緒に楽しく折り紙をするお年寄り

地域のお年寄りに小学校の様子を見てもらうと「孫の授業参観」

笑顔で交流

老人大学生孫の授業参観

が行われました。これは、老人大学の世代間交流事業として全小学校で行われています。六月十五日、鶯別地区の老人大学の学生三十三名が鶯別小学校を訪れ、子供達と交流を深めました。児童会代表から「ようこそ」と歓迎のあいさつを受けた後、子供達の授業の様子を参観しました。その後、各教室で折り紙やお手玉などで子供達と楽しく過ごし、お昼には給食を一緒に食べました。五年生から手作りの風鈴をプレゼントされたお年寄り達は楽しい一日に満足そう。

一人でも多くの方にボランティアの意味や内容を理解してもらい、活動の輪を広げることを目的に、初の市民ボランティア講座が開設されました。「あったかい街を目指そう」と社会福祉協議会とボランティアセンター運営委員会が主催。五月二十八日、最初の講座の公開セミナーが鉄南ふれあいセンターで開かれ、受講生(七十九名)と一般市民約百五十名が参加。「みんなで作るあったかい街ーいま自分たちが考えなければならぬこと」をテーマに日本YMCA同盟の吉永宏広報室長が、ユーモアを交えながら講演。「ボランティアとは、してあげるのではな

みんなで作るあったかい街

く、自然にできるように」と心構えを説きました。同講座は、十一月まで家庭介護や点字、手話など十一の講座を学んで行きます。



第1回市民ボランティア講座

※日本YMCA同盟 ボランティア会員によって成り立っている、社会教育団体。広く青少年の健全育成活動を行っています。

第1 ラブ フェスティ i KAM

約二十八万平方と広大な園内には、みどりのコーナー・遊びのコーナー・飲食コーナーなどが設けられ、市民でにぎわいました。

みどりのコーナーには格安の庭木や草花が並び園芸ファンで大人気



西 走



じゃぶじゃぶ川で笹舟レース

木にしぼったパネルの漢字を探して
四字熟語をつくりました



鯉の“赤ちゃん”放流したのに…

冬期間、オオハクチョウの越冬地として知られる幌別川で、白鳥テラスを夏の間も親しんでもらおうと、



幌別川を魚（シンクチュアリ（聖域））にしよう、今年二月市民有志の「幌別川を育てる会」が発足されました。「魚の生息しやすい河川環境は人間にも住みよい環境」が同会の基本理念。五月三十一日、同会初めての事業「ヤマベの稚魚放流」が幌別川上流の鉾山町で行われました。幌別川の工業用ダムを海に見立て、上流からヤマベの稚魚を放流。本来は海に出てサクラマスになるヤマベを湖沼性サクラマスに変身させ、「ヤマベの宝庫」にしようとする試みです。この日は、会員や市民約百人が参加し、一万匹の稚魚を放流。大きくなつてね」の声を背に、稚魚は元氣

錦鯉の稚魚五百匹を放流しました。これは、(財)日本釣振興会の常任理事を務める黒沢友義さん(鶯別町在住)が、同会に働きかけ実現したものです。五月二十一日、幌別西小学校の児童達が、体調約十センチの錦鯉をバケツからそつと川へ放流。しかし、それから間もなく心ないだれかに捕られてしまい、今では鯉の姿がほとんど見られなくなつてしまいました。放流を行った児童達はがっかり。また、黒沢さんも「皆さんでえ付けをして楽しんでもらおうと思つていたのに残念です。今後は、釣りの仲間達で釣つた鯉を少しずつ放流して行きます」とのことです。



ヤマベの“赤ちゃん”大きく育つてね

ふれあいと対話が築く明るい社会

第四十三回社会を明るくする運動

七月一日から三十一日



社会を明るくする運動
シンボルマーク

毎年七月一日から三十一日まで
の一月間、全国一斉に青少年の
非行防止と更生の援助を目的とし
た「社会を明るくする運動」が展
開されます。

今日の少年非行の現状を見ると、
数的には減少の傾向を示していま
すが、依然として低年齢者の非行
の占める割合が高いうえ、万引き、
乗り物の窃盗事犯や少年の心身を
むしばむシンナー、覚せい剤等の
薬物濫用事犯が多発しています。

必要です。

また、少年の徳性や規範意識を
育み非行に陥った少年の更生を図
るために、幅広い地域活動を展開
する必要があるため、市が中心と
なり、警察署、学校関係者、PT
A、社会福祉団体、社会教育団体
等の協力のもとに「第四十三回社
会を明るくする運動登別地区実施
委員会」を設け、啓発パレードや
児童生徒及び婦人を対象とした映
画会、地区懇談会を計画していま
す。

青少年の健全育成と明るく住み
良い社会をつくるため、市民一人
ひとりのご協力とご参加をお願い
します。

第四十三回社会を明るくする運動
啓発及び交通安全啓発パレード

▽日時 七月七日(水)午後一時三
十分

▽場所 幌別小学校グラウンド

▽パレードコース 下図参照

▽その他 パレード終了後、幌別

小学校グラウンドで北海道警察音

楽隊カラーガード隊によるドリ

ル演奏を午後三時十五分から行

います

※雨天の場合は、中止です。



こうした状況に対処するために
は、家庭、学校、職場及び地域社
会が一体となって、犯罪を誘発し
ないような社会環境を作ることが



昨年のパレードの様子

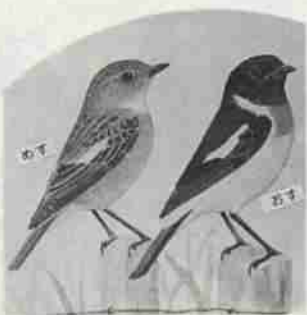


パレードコース

▽問い合わせ 社会福祉課
(☎519)



僕はノヒタキ。胸にオレンジ色の
日の丸、頭と背中黒で、おなかは
白いんだ。スズメよりはちよつとス
リムで小柄。ジュチチチ、ジュチ
チリリって歌って、ジャツジャツと
鳴くんだ。幌別川では、土手から突
き出ている枝先に止まっているんだ
けど、僕を見たことあるかな。
去年の夏、大事件が起きたんだ。
土手の草刈りをされてね、巣がむき
出しになってしまったんだよ。人が
歩く提防すれすれのところにも巣を
作るからね。女房は心配のあまり泣き
通しだったんだけど、ヨシキリの会
の人が、毎日見に来てくれて、巣を
カムフラージュしてくれたんだ。お
かげで、僕たちの子供が無事に五羽
巣立ったんだよ。



鳥名 ノヒタキ

▽観察時期 十月下旬ころまで
(文・写真提供 日本野鳥の会
会員ヨシキリの会)
▽問い合わせ 伴野さん(☎575
15)

第四十回衆議院議員総選挙

最高裁判所裁判官国民審査

投票日は七月十八日

衆議院が解散したことにより、衆議院議員の総選挙と最高裁判所裁判官の国民審査が行われることになりました。

衆議院議員総選挙は、北海道で五つの選挙区があり、登別市は第四区に入り、五人が選ばれます。

最高裁判所裁判官国民審査は、最高裁判所の裁判官が正しい裁判を行っているか、任期中の十年に一度、衆議院議員選挙の日に国民によって審査されるものです。

◎投票日には臨時サイレンを吹鳴
▽午前七時と午後五時 長声三十秒を一回

◎投票時間
午前七時から午後六時まで
ただし、第十一投票所（カルルス婦人研修の家）と、第十三投票所（登別市民研修センター）は午後四時まで

◎登別市で投票できる方
▽住所要件
平成五年四月三日までに転入届をし、引き続き三か月以上住所を有している方

▽年齢要件
昭和四十八年七月十九日までに出生した方で、前記の住所要件を有している方（投票日当日満二十



歳以上である方

▽投票所の変更

第十七投票所は「ひまわり園」から「美園婦人研修の家」（美園町四丁目八番地九）に変更です。

◎不在者投票日

▽衆議院議員総選挙 七月四日（日）から七月十七日（土）

▽最高裁判所裁判官国民審査 七月十日（土）から七月十七日（土）

▽時間 いずれも午前八時三十分から午後五時まで

▽場所 選挙管理委員会（市役所第二庁舎）

▽持参するもの 入場券と印鑑
※入場券がなくても、投票することはできます。

身体に重度の障害があるため投票所へ行けない方は、郵便を利用して自宅で投票できる「郵便投票制度」があります。

▽問い合わせ 選挙管理委員会
(☎9143)

となりまち

ほつとラミン

室蘭市



作家立松和平氏文化講演会

「むろらの海の自然を語る」開催

行動派作家として活力あふれる描写とみずみずしい感性で、多くの読者や視聴者に親しまれ、近年自然環境保護問題にも積極的に取り組んでいる立松和平氏を招き、室蘭海外体験による、海の自然を語る文化講演会を開きます。

この機会にぜひ、立松氏の人間味あふれる講演を聴いてみてはいかがでしょうか。

▽日時 七月十七日（土）開場午後一時 開演午後一時三十分

▽内容 「むろらの海の自然」をテーマとした講演のあと、地元の高校生と対談があります

▽場所 室蘭文化センター

▽入場料 無料

▽入場整理券取扱所 室蘭文化センター、室蘭市各サービスタワー、登別市教育委員会

▽問い合わせ 室蘭市文化振興課
(☎3156)

伊達市



勇壮華麗な戦国時代絵巻「伊達武者まつり」へ

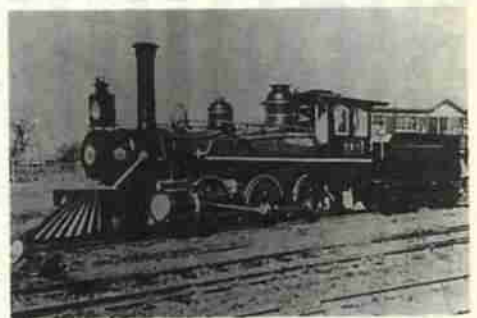
武士開拓の歴史と伝統をいまに伝える「伊達武者まつり」。

第十九回を迎えた今年も、八月七日（土）と八日（日）の二日間にお祭り開きます。祭りの夜を彩る華やかな「武者山車パレード」や勇壮華麗な戦国絵巻を繰り広げる「伊達騎馬総陣立」をはじめ、協賛事業としてたくさんさんの催しが行われます。「歴史のまち伊達」の夏祭りを存分にお楽しみください。

▽主な内容 ●武者山車パレード 八月七日（土）午後六時から午後十時 山下町雪印跡地を出発し、市中を練り歩き、ピートの効いた踊り「ファンク政宗」がまつりを盛り上げます

●伊達騎馬総陣立 八月八日（日）出陣の儀は午後三時から伊達小グラウンド 凱旋パレードは午後四時から午後五時三十分で、市中を行進します

▽問い合わせ 伊達市商工観光課
(☎0142)3331



登別沿線を走っていた「大勝号」

郷土史点描

登別郷土文化研究会

宮武紳一

38

登別に敷設された

「北海道炭砒鉄道」

登別沿線をもの珍しく走るようになった陸蒸気・北海道炭砒鉄道は、登別・幌別停車場を過ぎて終着の室蘭停車場に到着する。

停車場の場所は、当時の輪西村、現在の新日鉄伸町第一門付近。港のある現室蘭に設置されなかった理由は、明治二十三年（二八九〇）政府は室蘭港を第五鎮守府と定め三年後には、軍港に指定するなど軍事的理由があった。

輪西に設けられた室蘭停車場から驚別までの路線は、現在の新日鉄構内を一直線に走り、構内側は海岸、輪西市街側に屯田兵屋が見られ、現東室蘭から驚別付近の鉄北側にも屯田家屋が点在していた。それにしても、驚別から登別までの鉄道建設工事は大困難であった。例えば、室蘭のトンネル工事は、三か所あるが、登別停車場を中間に蘭法華トンネル（二二二メートル）、伏古別トンネル（六一〇メートル）の二か所。当時北海道にはトンネル工事経験

者がいなかったので、京都の疎水トンネル設計監督者田辺朝郎博士を招き工事指導をしたが、手掘りで湧水・崩壊事故続きの難工事。それに驚別川・幌別川・登別川の架橋やトンケン・現大和町などは大湿地で、機械力がない人海戦術での埋め立て工事は大変であった。

話は変わるが、明治中期から大正・昭和初期にかけて北海道開拓史上悪名を残したが「土工部屋制度」で、アイヌ差別・囚人労働とも人間弾圧では同様である。あらゆる意味の前借金により、厳重監視のもとに重労働を駆使され、特に明治期は、官権の力が酷使の現場に及ばない完全な無法地帯。何人が働き、何人が死んで行ったかを明確に伝える数字はない。飯場頭が生殺与奪の権を握るいわゆる「タコ部屋・監獄部屋」の土工制度が特に鉄道工事に一般的であった（新北海道史巻四）。

時の北海道は全くの労働不足。

九州、四国を合わせたよりずっと大きい地域に、明治二十年はわずかに三十二万余の定着人口しかない。労働不足に原始林伐木や湿地の埋め立て、厳冬の作業など、特殊事情の中で、道路・鉄道建設は国の重要政策である。道内季節労働者はもとより、東北・北陸・東京・大阪・四国地方と全国的に労働者が狩り出された。

募集屋は周旋屋・人夫曳、この手先が「ボン曳き・蛸釣り」と言われる人達。紳士風の男に金儲けの話をされ「まずは一杯呑みながら」と酒屋に案内。「北海道へ行かないか、朝は八時から昼三時まで働いて二円五十銭、食事は雇主もち、酒代も出る」との甘言に募集屋川村組に案内され明け方まで呑まされてそのまま上野駅から車中の人。車中で四・五円の前貸しに弁当のときは酒を呑んだり歌ったり、景気の良い出鱈目話と酔心の無頓着で北海道へ出る。

時季四月残雪あり。密林に覆われた四囲の景色ものすこく、家は丸太の粗材・板敷むしろ。一部屋三十人ずつ入ると鉄の錠が下ろされ、昼なお暗い中にやせこけた人達の顔も不気味なほど。外に拳銃、柏の太いこん棒をもつ身体の大きな棒頭が数人見張りをしていた。

さて、鉄道建設工事における「土工制度」は北炭室蘭線が最初と言われるが、このことは後日にして、登別地方の当時の地域状況や工事の様子を追ってみよう。

当時、驚別駅はなかったが現在の駅の東室蘭側は、驚別岬から日の出町市場・高砂町方向に丘が続いていたので、これを広く切り崩し線路を設定する。現在の驚別駅東北側は、驚別川が蛇行し三日月湖や深い川跡の沼沢をつくり、現在の富岸川や上驚別川などが美園町二、驚別町三丁目辺りで驚別川に流入していたので、少しの雨でも水があふれ湖のようになる。また、驚別町四・五丁目の国道とJR間に高い砂丘が続いていた（明治四十三年参謀本部図より）。

驚別川鉄橋付近の旧地名は「驚別村字ドロカワツブ」である。アイヌ語の「ウカオプ」は小山の名前だったというが、ちょうど砂丘が重なり合っている状態に「ト・沼・ル・路」の「沼への路」を考えると夢もあるが、泥を思わせる和人の呼称はどうであろう。それにしても大変な湿地帯であった。

保健推進員さん活躍中

「保健推進員」は、ちょっと聞きなれない名称ですが、各地区の健康づくりのリーダーとして、市と町内会の連絡調整を行い「健康づくりのパイプ役」として活躍する方です。

保健だより

ある地区では、青空教室が開かれ、万歩計をつけて川上公園まで歩きました。「一万歩」歩くことの大変さ、歩くことの効用を参加者と話し合い楽しみながら健康づくりの浸透を行っています。

市内には各町内会長から推薦

され、市から委嘱を受けた五十七名の保健推進員がいます。

任期は二年でその間、市の保健婦とともに、町内会館などで健康教室や健康相談を開きます。

内容としては、
 血圧相談（血圧測定）・糖尿病相談（血糖検査）・疾病教室・栄養教室（調理実習）・運動教室（体操の実技）などを行っています。

います。

保健推進員からは「健康の大切さを近所の主婦と話し合えてよかった」「もつとたくさんの方が集まってくれたらよかった」との声が出ており、健康づくりの増進に活躍しています。



婦人センターで開かれた健康教室の様子

保健推進員については、保健福祉課（☎6421）にお問い合わせください。

ネガティブ オプション

私たちが通信販売を利用して商品を購入しようとするとき、

消費者コーナー

まず最初に商品の注文を行い、その後、商品が送られてきます。しかし、消費者が注文していないにもかかわらず、商品を一方的に送りつけ、送りつけられた人がその商品を購入しない通知や返品をしない

と、購入の意思があると決めつけて代金の請求をする悪質な業者がいます。
 このような販売方法をネガティブオプションといい、消費者のなかには業者に代金を請求されて支払ってしまう人がいます。しかし、このような場合、訪問販売等に関する法律に基づき、代金を支払う必要も商品を送送する必要もありません。

また商品が送られてきてから十四日間（商品の引き取りを販売業者に請求したときは、その日から七日間）を経過すれば自由処分することができます。ただし、保管期間中に商品を使うと購入の承諾と見なされ代金を支払わなくてはならないこととなりますので注意が必要です。



ネガティブオプションで相談件数の多い商品は、健康器具、雑誌、単行本、保健衛生品、新聞などがあげられます。

また、「目の見えない方に盲導犬を送るため」などと福祉目的をうたって商品を買わせる「福祉商法」は八十部がネガティブオプションの形をとっています。

▽問い合わせ 登別消費者協会
 (☎8307)

まちかどぶらり



浦島太郎と亀

富岸町

亀田記念公園

平成元年に若草町にお住まいの稲垣信男さんから寄贈されたもので、公園管理事務所の職員が手入れをしています。

このオンコは、樹齢がおよそ70年。ということは、この浦島太郎70歳？

登別市民会館開館十周年記念

登別。パリ祭

六月二十六日から東京・北とびあ さくらホールからスタートしたシャンソンの祭典「第三十一回パリ祭」には、シャンソンの女王石井好子さんとともに、登別市出身の荒井洗子さんが出演しています。このパリ祭最終日の八月二日、市民会館開館十周年記念として札幌のあと、登別で公演が行われます。

荒井さんは、新劇女優を志し上京して以来、俳優小劇場を経て、現在はミュージカルの舞台を中心に活躍されています。シャンソン歌手の登竜門と言われる銀巴里では、出演以来二十年近く歌い続け、持ち前の楽しいおしゃべりと明るいステージで人気を博しています。また、登別市と首都圏をつなぐパイプとして平成元年度に発足した



ふるさと大使の盾を受けるミュージカル「カルメン」に出演中の荒井さん

登別市出身者の集まり「東京登別げんきかい」のメンバーでもあります。昨年十一月には、首都圏からふるさとへの情報発信役「登別市ふるさと大使」にも任命されています。

お誘いあわせのうえぜひご来場ください。

▽日時 八月二日(月)午後六時開場 午後六時三十分開演

▽場所 市民会館大ホール

▽入場料 三千五百円

▽入場券発売所 市民会館、大西レコード店、登別観光協会、鶯別支所、モンマートかつま

▽問い合わせ 市民会館
(☎1100)

ひとの動き

■人口 56,872人
(前月比 - 70)

■世帯 20,568世帯
(前月比 + 4)

平成5年5月末日現在

発行

登別市役所

総務部総務課広報広報係

☎0143⑧1130

〒059

北海道登別市中央町6-11